



# 札私幼

《編集》

札私幼広報委員会

《発行責任者》

一般社団法人

札幌市私立幼稚園連合会

前田元照

札幌市西区宮の沢1条1丁目1-10

札幌市生涯学習総合センター内

☎ 671-3590 FAX 671-3591

第153号 平成28年3月15日発行

## 平成28年 永年勤続者表彰 新年交礼会

平成28年1月19日(火)ホテル札幌ガーデンパレスにて永年勤続者表彰と新年交礼会が開催されました。藪副会長の開会の言葉で始まり、最初に前田会長からの挨拶がありました。続いて、永年勤続者41名の皆さんの表彰が行われました。(受賞者については、次ページにて紹介しておりますので、ご覧ください。)受賞者を代表して、勤続30年表彰を受けられた認定こども園新さっぽろ幼稚園・保育園の吉田深雪園長から挨拶があり、ご来賓、ご参会の皆様から、祝福の拍手が盛大に送られました。その後は、来賓の札幌市長 秋元克広様、前農林水産副大臣・衆議院議員 吉川貴盛様、前総務大臣政務官・参議院議員 長谷川岳様、札幌市私立幼稚園振興議員連盟会長・市議会議員 三上洋右様からご祝辞をいただきました。皆様それぞれに、永年勤続表彰を受けられた皆さんへの敬意や幼児教育そしてそれを担う幼稚園の重要性、今後の展望についてなど、お話しくさしました。北海道議会議員の岩本剛人様から祝杯のご発声があり、祝宴が始まりました。祝宴中にも、ご来賓の方々からスピーチをいただき、参会者から永年勤続者への労いの言葉や、表彰者同士また参加者同士の情報交換など、会場全体が終始賑やかで華やかな雰囲気の中、楽しい時間を共有いたしました。最後に、北海道議会議員の角谷隆司様から結びの乾杯のご発声をいただき、丸谷副会長の閉会の言葉にて終了となりました。



## 平成27年度 幼稚園教諭養成校・札幌私立幼稚園 懇談会

12月15日(火)、幼稚園教諭養成校との懇談会が札幌ガーデンパレスホテルにて行われ、養成校からは15校23名、札私幼は理事・監事20名が出席しました。北翔大学教育文化学部教育学科 准教授 伏見千悦子先生の司会のもと、北翔大学教育文化学部教育学科 学科長 佐々木邦子先生、札私幼前田元照会長の挨拶があり、その後、札私幼から就職フェアの報告を行いました。

今年度は、新たな試みとして出席者を7つのグループに分け①教育実習について②就職について、懇談をした後それぞれの話し合いの内容を発表しました。養成校、幼稚園双方の現状や課題について具体的に話し合う事ができお互いに理解を深める事ができた懇談会となりました。



# 永年勤続表彰受賞者

## ✿ 勤続30年表彰 (園番号順)

3名



熊谷ひとみ  
(札幌いづみ幼稚園)

吉田深雪  
(認定こども園新さっぽろ幼稚園・保育園)

三浦慶子  
(宮ノ丘幼稚園)

## ✿ 勤続20年表彰 (園番号順)

13名



本田博美  
(ふしこ幼稚園)

大間知淳子  
(北栄幼稚園)

植木祐子  
(聖ミカエル幼稚園)

金子厚子  
(幼保連携型認定こども園さつなえのもり)

花香美千留  
(あゆみ第二幼稚園)

佐賀のり子  
(菊水いちい認定こども園)

太田真理  
(白石幼稚園)

松本つねみ  
(札幌第一幼稚園)

榎本真樹  
(なかのしま幼稚園)

岩谷秀信  
(西岡ふたば幼稚園)

吉岡むつみ  
(平ヶ岡幼稚園)

高垣洋子  
(いしやま中央幼稚園)

記内貴代  
(認定こども園 そらいろ)



# ❁ 勤続10年表彰 (園番号順)

25名



片岡希美  
(華園幼稚園)

武藤結季  
(華園幼稚園)

佐久間千尋  
(茨戸メリー幼稚園)

小林ひろみ  
(札幌大谷大学附属幼稚園)

坂本麻衣子  
(ふしこ幼稚園)

加藤由美  
(北栄幼稚園)

今城まりえ  
(聖ミカエル幼稚園)

堀智美  
(あゆみ第二幼稚園)

横山揚子  
(ひばりが丘明星幼稚園)

真鍋俊彦  
(認定こども園 いちい幼稚園)

山本正義  
(札幌若葉幼稚園)

深澤綾香  
(西岡ふたば幼稚園)

斉藤直人  
(西岡ふたば幼稚園)

湯本綾香  
(札幌きたの幼稚園)

湊昌代  
(認定こども園 北野しらかば幼稚園・保育園)

岡部明美  
(認定こども園 北野しらかば幼稚園・保育園)

村上沙織  
(つみき幼稚園)

桜井麻衣  
(澄川幼稚園)

平中智美  
(いしやま中央幼稚園)

加藤利行  
(インターナショナル山の手幼稚園)

齊藤政子  
(平和幼稚園)

上村毅  
(星の子幼稚園)

千葉有里  
(星の子幼稚園)

守田亜由美  
(富丘つくし幼稚園)

大友浩己  
(富丘つくし幼稚園)

## 平成27年度札私幼臨時總會・代表者会議

2月23日(火)午後2時より札幌ガーデンパレス「丹頂」にて札私幼臨時總會及び代表者会議が開かれました。今回も丸谷副会長の進行でスタートです。

冒頭、前鼻振興会長より4月24日衆議院議員補欠選挙立候補予定者和田義明氏のご紹介があり、前田会長のご挨拶で總會が始まりました。

中村振興委員長の定足数の確認(133園中88園の参加)により總會の成立が告げられ議長に北区藤幼稚園 池田浩明氏を選出、議事録署名人には北区麻布明星幼稚園 久保哲也氏、厚別区札幌おぼ幼稚園 笠松真理子氏の両名が指名され議事に入りました。

議案第1号平成28年度事業計画案について各委員会委員長より案を提示されました。議案第2号平成28年度収支予算案について樺沢事務局長より増減のある科目等経過説明があり、特に園別研修費の見直しを含め検討していただきたいとの旨が述べられました。第3号議案その他としての提出案もなく議案すべてが参加会員の皆さんの拍手で承認されました。

報告第1号平成28年度理事・監事等候補予定者について前田会長より今回は任期改選時期ということもあり次の体制作りをしっかりと進めたいとの方向で候補予定者を提示。新体制では認定こども園委員会の設置に伴い副会長を2名から3名に増員することなど5月

の總會にて規約改正を諮りスムーズに活動をしていきたいとお話がされ總會を終了しました。

引き続き代表者会議が藪副会長の進行で始まり、先に中村振興委員長から実態調査概況報告があり、より正確な実態・情報を求めるうえで会員園の(今回は103園が提出)さらなる協力をいただきたいとのお願いがありました。

その後、講師に文部科学省初等中等教育局幼児教育課専門官 大野雅史氏を迎え「子ども・子育て支援新制度に関する最新動向」の実情が話され、「白石幼稚園」・「幼保連携型認定こども園さつなえのもり」の2園を参考例に公定価格試算ソフトに入力しながら検討していきました。途中パソコンの不具合もあり、一時集中力が途切れた感がありましたが、最後に藪副会長の閉会の挨拶で「人生のスタートにこそ良質な教育を！」の言葉に沿い、子ども・子育て支援新制度が各園の保育の質を高めていくための事業であることを認識し、この制度のしくみを十分に理解するために今後も札私幼として勉強会を持ちましょう！との力強い言葉で午後6時すべて終了となりました。



## 平成28年度札幌市予算(私立幼稚園関係)ー特別支援教育補助金大幅アップー

昨年11月5日の予算要望以降、札私幼執行部は、前田会長を中心に子ども未来局と粘り強く予算折衝を行いました。その結果、2月1日、平成28年度の札幌市予算案が秋元市長より発表されましたが、特別支援教育事業費補助金に関して、大きな前進がありました。以下に、予算案の概要をまとめます。

### ①特別支援教育事業費補助金(基準改善)

教諭人件費4人目の補助条件が、「要支援児16人以上受入」から「13人以上受入」に緩和されたことで、27年度に比べ4,200万円ほど増額の3億8,481万2千円の予算を獲得することができました(下表参考)。私立幼稚園関係の予算としては異例の市長査定という過程を経て決定されたもので、支援を必要とする子どもたちの育ちに札私幼加盟園が積極的にかかわっていることが、社会的に認められつつあることの証であるとともに、

現行水準(平成27年度)

要支援児数	教諭数	補助単価
1~4人	1人	901,200円
5~8人	2人	1,802,400円
9~15人	3人	2,703,600円
16人以上	4人	3,604,800円

新基準(平成28年度)

要支援児数	教諭数	補助単価
1~4人	1人	901,200円
5~8人	2人	1,802,400円
9~12人	3人	2,703,600円
13人以上	4人	3,604,800円

今後は、保育者の手厚い配置や研修の参加等によって、各園が特別支援教育の充実をさらに図っていく責任があるといえそうです。

### ②認定こども園整備費補助(新規)

幼稚園から認定こども園に移行する園に対し、幼稚園部分の改築も含め、新規に整備費補助が出ることになりました。28年度は幼保連携型が5園(予算規模17億円程度)、幼稚園型が2園(予算規模7千万円程度)で、すでに1月19日に説明会が開かれ、申込みは締め切られています。

### ③その他

教材教具等整備費補助金、札私幼への研修費等補助金は、現行水準を維持することができました。また、幼稚園教諭が保育士資格を取得する際に要する費用の一部補助も、148万円程度予算化されています。

なお、28年度予算案は、市議会の28年第1回定例会の審議を経て、3月中に議決される見込みです。予算要望、予算折衝へのご支援、ありがとうございました。



## 第35回政令指定都市私立幼稚園団体協議会 仙台協議会

全国には政令指定都市が20ありますが、そのすべての私立幼稚園団体が加盟する政令指定都市私立幼稚園団体協議会の仙台協議会が、2月4日(木)、5日(金)の2日間、仙台市内のホテルで行われました。札私幼からは、前田会長、丸谷副会長、藪副会長、政令運営委員の前鼻先生が出席し、各都市との情報交換を行いました。

### 1日目

全日私幼連の香川会長の基調講演に続き、「認定こども園の現状と課題」という協議題で、横浜市と神戸市から発表がありました。横浜からは、認定こども園の教育・保育の質、利用調整のあり方などについての課題が示されました。また、神戸からは、認定こども園への移行に関するアンケート調査の結果報告があり、応諾義務、教員の意識、保護者の意識などの視点から、現場の生の声が伝えられました。

### 2日目

「各都市での教員採用の状況について」「教員の資質向上の研修」という2つの協議題について、グループ協議を中心に、各都市の情報交換、意見交換を行いました。

人材確保に関する福岡の事業報告によると、学生向けの就職説明会だけでなく、幼稚園と養成校の懇談会

という場を作り、養成校がブースを出す機会を設けているとのことでした。また、就職フェアなどの事業に対して、横浜市は200万円、北九州市は100万円の補助金が出ているという報告もありました。

研修に関する協議では、京都から、年に1回海外研修(姉妹都市)の機会を設けているとの発表がありました。また、各都市との情報交換の中で、「保育所との合同研修会が少しずつ増えている」「認定こども園の保育士の研修が課題」など、今日的な課題も見えてきました。また、札私幼の研修内容や幼児教育センターの存在などにも、関心をもたれました。

新制度になって、私立幼稚園・認定こども園と市との関係が深くなった今、他の政令指定都市の動向を直接知ることができるこの協議会の存在意義も増してきています。今後も、各都市の幼稚園団体とのネットワークを活かしながら、札幌の幼児教育のさらなる充実を図りたいと思います。



## 第2回「札幌幼児教育セミナー講演会」

今年度2回目の幼児教育セミナーが1月25日(月)に、かでの2.7で行われました。

学校法人あけぼの学院 認定こども園 立花愛の園 幼稚園 理事長・園長 濱名浩先生をお迎えし、「人とかかわりとモノとかかわりから保育を考える」～子どもの主体性を育む保育者の援助とは～というテーマでセミナーが行われました。始めに、「保育は難しい!」との先生の話に、日頃、一生懸命に子ども達と向き合い保育をしている中で保育の難しさを感じている先生達も多かったですのではないのでしょうか。濱名先生の言葉に大きくうなずき同じ思いを共感していたと思います。また、主体性の話では、もっと子どもの立場になって考える事や安定した情緒の下で自己を発揮したり、心を動かすような楽しさを知る経験が主体性を育てる基礎になり、基礎作りの重要性を感じました。そして、自由あそびでも放任ではなくねらいを持ち子どもと関わりながら、楽しさを十分に感じる保育を行う事で主体性が育って行くことを学び、明日からの保育を考える機会になりました。後半には、平成30年の

幼稚園教育要領の改訂に新たに非認知能力に関わる内容が組み込まれることについて一足早く情報を頂きました。非認知能力とは我慢強く最後まで頑張る事が出来る事や子ども達が主体的に考え協同性を持って活動する事を指し、その実践例として濱名先生の園での発表会の劇を見せて頂きました。生き生きと自信を持って表現する姿にとっても感動しました。最後に、兵庫県からきた濱名先生は、講演会の前に美晴幼稚園と札幌ゆたか幼稚園を訪問され初めて雪山を滑り、心が動くような楽しい体験をする事が出来たと喜んでいました。札幌では当たり前の遊びですが雪遊びの素晴らしさを改めて感じさせて頂いたことに嬉しく思うセミナーとなりました。



# 園紹介 アラカルト



## 【学校法人札幌わかかさ幼稚園】

園長 角谷 毅



当園は昭和41年に開園。春の桜、初夏のこぶし、秋にはいたや楓、冬には雪化粧と四季折々、彩りを添えて親しませてくれる藻岩山のすそ野に広がる落ち着いた環境の住宅地の中にあります。

当園では、自由保育の理念に学び、遊びを通して生理的・心理的機能を育成する為、地域の実態（環境、子ども）に基づいた、自由保育と集団年齢活動の調和した保育を目指しています。

ゆったりとした時の流れの中で、のびのびと個性を伸ばすことを心がけています。また、異年齢の縦割りクラスの編成（1クラス2名の保育者の配置）により、人間関係を学び、自己主張、自己抑制、思いやりの心、社会的協調性を育てます。

1日の保育の中に集団、年齢別活動があり、どの子にも経験させたいことを計画的に行います。ある時期までに育てたいこと（基本的行動等）は、その子の良い所を認めながら自信を持たせ、自分から出来るようになるよう動機づけます。（時間の条件を整える）遊びの中で「自己抑制」し、自分のわがままが通らない社会のあることを自覚します。人間関係の刷り込みの臨界期は、3、4歳といわれます。異年齢の子と作業したり、遊んだり、世話をされたりしながら、自己主張と自己抑制と思いやりの心を学ぶことによって自立感を育てることは、不登校・いじめ・学級崩壊の予防

につながります。

南区は自然環境に恵まれ、緑に囲まれた公園、自然保護林など自然に親しむことができる素晴らしい環境が多くあります。当園では、自然との関わりを大切にしており、週に1回程度自然を求めお出かけがあります。そんな自然の豊富な中で、夢中になって昆虫を追っかけたり、草花を摘んで飾りをつくる子、木登りを試みる子、草原を駆けまわったり、五感を総動員し汗びっしょりです。「不思議に思う」気持ちは、事物の存在や現象に気付くことから始まります。自然認知能力は自然の中で夢中になって遊び、工夫することにより、子どもの好奇心の赴くままに、自然に高まります。目ざとく虫や草花を見つけたり、前日雨が降らなかったのに草が濡れていることに気付いたり、四季の移り変わりなど、発見や疑問、感動や驚き、活動する楽しさや喜びを通して、事物の性質に興味・関心を持ちます。この興味・関心が五感・直感・感性を豊かにします。伝統的に自然との関わりを大事にしている幼稚園です。2005年に「科学を育てる」創意・工夫を実践している幼稚園としてソニー財団から表彰を受けました。

その他、特徴的な活動を挙げると、園庭でのジャガイモ栽培、成長の過程を体験する為、開花の時期、実りの時期、の果樹園訪問、年長体育は外部講師を招き「たいいくあそび」を行っています。図書コーナーを充実させ園と保護者協力の下、読み聞かせ、絵本の貸し出しに力を入れ本好きの子を育てることを目標に特に力を入れております。人間としての脳と心と身体づくりを目指して保育の充実を心がけております。





## 第3回 乳幼児研修会

2月18日(木) 札幌小暮ビル・カンファレンスルーム

今年度から振興委員会の「札私幼子ども子育て支援新制度検討部会」にて企画運営された「乳幼児研修会」の3回目が2月18日に行われました。今年度最後の回となった今回は、「乳幼児（0～2歳児）の保育を支える基礎的学び」として、講師に、社会福祉法人 札幌光明園まこと保育所所長 真鍋尚美様をお迎えしました。1、2回目につき、会場いっぱいを用意された席はほぼ満席となるほどの参加状況でした。真鍋先生の穏やかで温かなお話しぶりに引き込まれ、一時間半という時間はあっという間に過ぎてしまいました。

私立・公立幼稚園教諭としても勤務されたことのある真鍋先生の様々な立場からの経験をもとに、「保育の仕事と保育者の役割」「危機管理について」「育てる人を育てる」という3つの視点から、丁寧にわかりやすく、理論に基づいたお話しをいただきました。その中で、人間としての育ちを支え導く0、1、2歳の保育の広さと深さを知ることができました。幼稚園に携わ

る者としては0～2歳、3～5歳と分けて考えてしまいがちですが、3～5歳の成長は、0～2歳の成長の基に成り立っていることを改めて感じこれからの保育に何が必要なのか、また、子どもに向き合う身近な存在であり大きな影響力がある保育者の私たちが、一人の人間としてどうあるべきかという根本的なことも再度考えさせられた、大変貴重で豊かな研修となりました。



## 平成27年度札私幼会員園向け就職フェアアンケート集計結果

アンケート回収61園（回収率46%）

### 問1 平成27年度札私幼就職フェアに参加しましたか？

参加した 28（ブース参加 3 求人票参加 4  
ブース・求人票参加 21）  
参加しなかった 33

### 問2 就職フェアへの参加は、教員の採用にとってメリットがありましたか？

a とてもメリットがあった 7  
b メリットがあった 10  
c どちらともいえない 7  
d あまりメリットはなかった 2  
e 全然メリットはなかった 1  
f 採用がない（まだ採用を行っていない） 0

### 問3-① 就職フェアの良い点

- ・直接学生と話をすることで、学生の意識や傾向を知る事ができる。
- ・自園の事を直接アピールする事ができる。
- ・現場の先生の声を伝える事ができる。
- ・他園の特色や求人票について知る事ができる。

### 問3-② 就職フェアの改善点

- ・ブース参加園、来場者数共に増えていくような工夫が必要。
- ・開催場所の検討が必要（利便性の良いところなど）。
- ・各ブースに掲示している物が見えにくいので設置方法等工夫してほしい。

- ・養成校との協力体制を作る必要がある。
- ・各園のアピールだけではなく、幼稚園教諭の仕事についてアピールできるような工夫が必要。

### 問4 就職フェアに参加しなかった理由を教えてください（複数回答）

a 日程が合わない 10  
b 次年度の採用がなかったから 12  
c 必要性（メリット）が感じられない 0  
d 対応する職員がいない 8  
e その他 7

### 問5 就職フェアに関するご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・養成校で学生にどのくらい告知しているのか。また、養成校側のこのフェアに対するニーズはどの位なのか知りたい。
- ・就職フェアは必要な事業だと思うので続けて欲しい。
- ・求人を目的とするためのフェアなのか、目的をもっと明確にしてほしい。
- ・学生が知りたいことは何なのか事前に情報があると、ブースでの説明内容を明確にできる。

アンケートにご協力頂き、ありがとうございます。この結果を次年度に活かしていきたいと思っております。平成28年度就職フェアは9月24日(土)ホテルさっぽろ芸文館（旧厚生年金会館）で開催致します。皆様のご参加をお待ちしております。



# 連台会日誌

札幌市私立幼稚園連合会の主な動き  
(11月以降・予定を含む)

- 11月4日(水) 自民党振興議連予算勉強会
- 11月5日(木) 札幌市長予算要望
- 11月6日(金) 設置者園長研修会
- 11月6日(金) 第58回北海道私立幼稚園教育研究大会札幌  
～7日(土) ブロック大会  
兼第47回札幌市私立幼稚園教育研究大会
- 11月11日(水) 札幌市市長政策室長子ども子育て支援新制度等勉強会
- 11月13日(金) リーダーカススキルアップ講座
- 11月16日(月) 総務委員会
- 11月18日(水) 振興委員会新制度部会「第2回乳幼児研修会」
- 11月25日(水) 市議会会派予算勉強会
- 12月9日(水) 広報委員会
- 12月11日(金) 子ども未来局予算折衝
- 12月15日(火) 養成校懇談会  
第5回理事会  
総務委員会

- 1月25日(月) 第2回幼児教育セミナー
- 1月27日(水) 振興委員会
- 1月28日(木) 札幌市幼児教育推進協議会
- 2月4日(木) 政令指定都市私立幼稚園団体協議会仙台協  
～5日(金) 議会
- 2月10日(水) 研究委員会
- 2月10日(水) 広報委員会
- 2月12日(金) 札幌市子ども未来局予算折衝
- 2月18日(木) 振興委員会新制度部会「第3回乳幼児研修会」
- 2月23日(火) 総務委員会  
第7回理事会  
平成27年度臨時総会  
代表者会議
- 2月29日(月) 札幌市幼保小連携協議会

**予 定**

- 5月20日(金) 平成28年度定時総会  
理事会  
総務委員会  
代表者会議
- 7月5日(火) 札私幼PTAふれあい交流
- 9月24日(土) 就職フェア
- 10月28日(金) 札幌市私立幼稚園教育研究大会  
～29日(土)

**平成28年**

- 1月4日(月) 札幌市子ども未来局・市長政策室予算折衝
- 1月5日(火) 札幌市子ども未来局予算折衝
- 1月19日(火) 永年勤続表彰・新年交礼会  
第6回理事会  
総務委員会



今年の春は、いつもの春より寂しい春になりそうです。うちの園では、子どもたちを送り出すとともに、園舎の全面改築を行うからです。

いまの園舎は昭和45年の完成。当時は「新園舎」だったはずの幼稚園に、幼い僕も通いました。壁や床の風合い、保育室のにおい、光が差し込む加減、すべてが懐かしい記憶と重なります。幼児教育の制度や役割が変わっても、昭和45年生まれの園舎は、古き良き時代の「幼稚園」の誇りを、今も静かにそのたたずまいの中に宿しています。もう一つ変わっていないものがあります。それは、園舎に満ちあふれる子どもたちの笑顔と声。子どもたちがいない園舎は抜け殻のようですが、子どもたちの充実した遊びと生活が繰り広げられる園舎は、テーマパークのようにワクワク感のある大きな大きな家です。仮園舎も、1年後に完成する新園舎も、ただの無機質な器ではなく、子どもたちと一緒に

あたたかみのある空間にしていきたいと思います。

さて、現在の広報委員も、新年度以降、メンバー構成が変わります。この2年間、札私幼として初の就職フェアの実施、札私幼60周年記念誌の発行、広報誌の定期的な発行など、いくつもの事業に少数精鋭で取り組んできました。担当副会長の僕は見守るだけで、太田真理委員長を中心に、渡部律子副委員長、鈴木真弓先生、押野里美先生、大村紋子先生、天保聖子先生という全員女性の委員は、常に細かい配慮を欠かさない女子力を発揮しての活動でした。手前みそではありますが、何かの機会に、広報委員にねぎらいの言葉をかけていただければ幸いです。新しい広報委員会では、いまの空気感を大切に、何事においても流れ作業ではなく、心のこもったあたたかみのある委員会として、札私幼会員園のため、究極的には子どもたちのために、事業に取り組んでいきたいと思います。今号もお読みいただきありがとうございました。来年度も、よろしく願いいたします。  
(広報委員会担当副会長 藪 淳一)